

学位論文審査基準

【化学】

理学研究科 化学専攻

理学研究科 科学教育専攻(理学(化学))

工学研究科 工業化学専攻

創域理工学研究科 先端化学専攻

項目	課程/論文	基準
主論文を構成する論文の条件	課程博士	(1)Full paper1 報と Letter(Note、Communication 等を含む)1 報以上、あるいは、 (2)Letter(Note、Communication 等を含む)3 報以上が、Peer review の審査制度が整った学術雑誌に掲載あるいは掲載決定されていること。
	論文博士	Full paper3 報以上を含む 4 報以上(4 報目は Full paper であれば 1 報、Letter、Note、Communication 等であれば 0.5 報として算入する)が、Peer review の審査制度が整った雑誌に掲載あるいは掲載決定されていること。
博士学位にふさわしい学力確認の基準(学位論文の内容に係る審査条件)	課程博士	論文内容に関するプレゼンテーションおよび質疑応答を通して、きわめて高度な専門知識や研究能力を審査する。その際に、化学・化学工学・材料科学の発展に資する高度な研究が行われていること、研究内容が独創的であることを確認する。また、それに関連する基礎的な学力・学識も確認する。
	論文博士	
国際化に対応する研究者としての能力確認の基準	課程博士	英文論文の執筆、および英語での学術的コミュニケーションがとれる能力を有すること。これを評価する基準として、主論文を構成する論文のうち、国際的な学術雑誌に、英文原著論文を 1 報以上発表すること。さらに、国際学会等での発表、海外との共同研究実績などを総合的に評価する。
	論文博士	
在学期間短縮に係る基準	課程博士	優れた業績を上げたと認められ、かつ (1)論文博士に適用される基準を満たしていること。 (2)当該学生の指導教員より研究科長宛理由書を提出し、研究科委員会(博士)における予備審査以前に、研究科幹事会において事前の業績審査を行いそれに合格すること。